

(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 2月 5日

【事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	4270202700		
法人名	有限会社 エクセル		
事業所名	グループホーム あたご		
所在地	〒858-0918 長崎県佐世保市相浦町 138-2		
自己評価作成日	H25年12月15日	評価結果市町受理日	H26年2月13日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217番地 島原商工会議所1階
訪問調査日	平成 26年 1月 21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none">・ 入居者の意向を尊重し、外出をしたり、施設行事を計画する際の参考として意見をお聞きし、外食やイベントを行っています。・ 天気の良い日や暖かい季節には、施設の外で体操や日向ぼっこ、農園の作物収穫などを地域の方と一緒にしています
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点 (評価機関記入)】

<p>当該ホームは、二階建ての2ユニットであるが、職員間で情報を共有し入居者や家族の安心に繋がられている。又、佐世保で有名な愛宕山の近くに立地し、商店街の中に位置しており色々な面において開設当時から地域の協力があり、一つとして駐車場脇に作物を植えられ出来不出来はあるものの、入居者の楽しみの一つとなっている。毎年、愛宕山まつりには地域の中に積極的に参加してホームの職員や入居者が持ち寄った品でバザーを開催し、入居者の温泉等目的を持った取り組みがなされている。管理者は評価訪問時、紹介をして頂き入居者が違和感なく一日が過ごせるよう心くばりをされている。新しい入居者には職員が名前入りの暖簾をプレゼントされご自分の居室確認にも役に立っている。その中で入居者の「出来る事」を生活の中で取り入れそれぞれが自然に役割を担いながらお互いに支えあっている様子が窺えた。</p>

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
I 理念に基づく運営								
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関先に「ゆっくり・一緒に・楽しく」の理念を掲示し、その理念のもと職員ひとりひとりが意識し実践できるように取り組んでいる	ホーム理念は管理者の思いにより考えられ目につき易い玄関に掲げられている。また、管理者、全職員は入居者に合わせマンツーマンでゆっくりと対応し理念を実践している。				
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事参加や保育園児との交流、中学・高校生の職場体験学習の受け入れ、町内会の方と一緒に農園の作業を行うなど日常的に交流を行っている。	入居者は近隣の方が主であり、開設時から町内会会長を筆頭に声かけをして頂き、地域の社会的支援を活用している。駐車場脇に町内からの支援で畑を作り、現在、玉葱を栽培している。また、定期的に保育園の訪問があり日常的な交流が図られている。				
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加したり、日頃の制作活動の発表の場として地域の文化祭などに作品を出展して活動を披露している					
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、施設の活動報告や意見交換を行っている。町内会長や民生委員からの情報提供を受け、行事予定に組み込んでいる	家族代表や町内会長の意見や要望も伝えられ避難訓練時の気づきなど今後の取り組みに活かされている。玄関に運営推進会議議事録は置いてあり何時でも見られる状態である。又、毎月の「お便り」で入居者家族へ知らせている。				
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席していただき、情報・意見交換を行っている。市主催の各研修にも参加している。	運営推進会議の場を利用したり、市へ書類提出は直接出かけ情報を頂いている。家族希望の施設移動に関しても市と連絡しすぐに返事が頂ける関係が出来ている。				

6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修・講習に参加し、マニュアルを整備しているが、身体拘束をしないケアを心がけている。日中、施設の施錠は行っていない。	月1回のカンファレンスをユニットごとに行い、全体カンファレンスで2回の身体拘束に関して職員の意見交換をし意識をもって取り組まれている。必要があれば主治医や家族と相談の場を持たれ、拘束をしないケアに取り組まれる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス時には虐待防止についての話し合いの場を設け、意見交換・情報提供を行い、防止につとめている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の参加を行い、資料は整備してあるが、現在まで活用には至っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族の希望や不安な点について十分に話し合いを行い、理解・納得していただくようにしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会総会での意見交換や運営推進会議での家族会代表からの意見など、施設に対する気づきなどの意見をいただき検討・改善に努めている	入居者家族の面会回数が多く、職員は声かけを行い意見や要望を聞く機会を作っている。意見箱を設置しているが、ノートを居室に置かれている家族の方もおられ遠慮無しに言える雰囲気である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンス時に意見交換や話し合いを行っている	年1~2回自己評価表を提出してもらい、管理者と職員が対話の場を設け、スキルアップを協力している。介助用具の要望で職員の負担軽減に繋がった。	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	定期的な面談を通して、職員の（身体的・金銭的）負担も考慮してくれていると感じる		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	研修や勉強会に参加し、また資格取得にも意欲的に取り組んでいる		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	他の施設のイベント参加や座談会・研修などに参加し業務内容・勤務態勢等の情報交換を行っている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	入居時にご家族からの聞き取りや、事前にご本人のサマリー等で情報で不安要素を把握し、改善できるように関係作りに努めている		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	入居希望時から、十分に面談を行い、最も困っている事を明らかにし不安なく利用していただけるようにしている		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	十分な話し合いの中で必要な支援を見極めるようにしている。必要に応じて他の職種からの意見も参考にしている		

18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの自宅生活の継続として出来ること、得意としていることを行うことで楽しく共同生活を送れるように支援している		
19	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況を報告し、外出・外泊など利用者が希望されていることを伝え、望みを叶える事が出来るように支援している		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人の面会や手紙のやり取りなど関係の継続に努めている	近隣のホームと行事の時往来する機会作りをされ入居前のご近所の方と再会したり、手紙のやり取りの支援に努めている。普段から行き来しているご家族を通して連絡を入れ、協力をお願いし関係継続に努められている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的に利用者とは話をし、個々の関係を把握し話題を提供したり、トラブルにならないように間に入りコミュニケーションをとりやすいようにしている		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じて、面会を行ったり相談に応じている		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	施設内での生活の様子やマンツーマンのコミュニケーションを通して利用者の希望すること、必要な支援を検討している	午後の時間帯に職員は入居者に沿い、思いや意向を聞く機会を作っている。管理者は個々の入居者の悩み等をゆっくりと聞かれ、入居者の安心に繋がり信頼関係が出来ている。	

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との面談、入居前の情報、家族、ご友人からの情報などから、これまでの暮らしの様子を把握するようにしている		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の身体的状態や気付き、注意点などの記録を行い、あわせて重要なことは申し送りを確実にし全職員で個々の把握に努めている		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにて意見交換・話し合いを行い、利用者、ご家族の意見・希望をふまえ、必要に応じて主治医の指示などを反映した計画書を作成している	入居前に本人、家族、主治医とモニタリングを行い介護計画書を作成、3ヶ月、6ヶ月の見直しを行なっている。業務日誌に簡単に記入し、個人記録に細かく記入して現状に即した介護計画を作成している。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の変化や日々の様子など記録を通して職員間の情報共有を行っている。必要に応じて話し合いも行っている		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り、利用者の要望に対応できるように努めている		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園児の慰問・中学生の職場体験を通して一緒にレクリエーションなどを楽しませられている		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の同意のもと施設主治医の診察を受けている。主治医の変更、専門外来の受診も可能。	協力医の往診は月2回（第2、第4）ナースは健康観察（第1、第3）である。かかりつけ医との連携も取れており、薬の相談など適切な医療が受けられている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護師の訪問があり健康観察を行っている。異変時は主治医に報告していただき、素早い対応が出来るように心がけている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設での情報提供を行い、退院間近になると、担当医やご家族・看護師・相談員と協議し、状態に応じた受け入れが出来るようにしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本方針を定め、入居時や入居後定期的にご家族の希望の確認を行い、書面にて記録を残している。	看取りまで支援する方針である。入居者家族には入居時に看取りケアの説明を行い了解を得ている。現在まで看取りの経験はないが、協力医の情報を得ながら取り組む考えである。	ホームとしての指針は示されているが、職員の研修、メンタル面に対して話し合われることが望ましい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成したり、研修に参加し事故発生に対応できるようにしている。また施設主治医からのアドバイスなども職員間で共有している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練の他、消防署による災害訓練の指導、地域の方々にも避難訓練をみていただくなど協力体制にも努めている	2Fは避難経路が1箇所である為、避難場所として反対側のベランダを考慮されている。年に一度消防署立会いの下、避難訓練、各検査が行なわれ2ヶ月に1回、自主訓練を行ない職員同士のアドバイス等で次の訓練に繋げている。自然災害に関しても大潮の場合を想定し避難場所は2階での待機となっている。隣組3件にも自動火災通報を登録し協力をお願いしている。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、丁寧な言葉かけを行っている。また誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけに気をつけている	基本は名字で呼ぶようにしているが、親しみやすい呼び名で対応する入居者もいる。職員は口腔ケアに関して支援されているが食後、義歯の洗浄にテーブルの上にケースを出されたが入居者の戸惑いが見られた。	職員は、入居者の気持ちを察し性格や生活歴を参考にトイレ誘導に関しても自尊心を傷つけないような言葉かけや対応に心がけることに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から信頼関係を築き、利用者の意思で決定出来るように心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく利用者の希望に添うようにしているが、状況によっては希望に添えないこともある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で洋服を選んでいただいたり、悩んだときは一緒に考える。施設行事があるときは化粧をして参加される		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいメニューを聞き取り献立の参考にしたり、食後の茶碗ふき・食材の下ごしらえなどのお手伝いを行っている	メニューは入居者の要望や希望により、1ヶ月の中に取り入れ7名の料理の得意な職員で取り組んでいる。身体状況に応じ食事形態も対応できている。入居時には自前の茶碗、箸も準備され入居者も食後の片付けやお茶碗拭きなどの手伝いをされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や塩分の摂取について主治医の指示がある方は摂取量の調節を行ったり、嚥下状態に応じた食事形態にて提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前うがいをを行い、唾液の分泌を促し誤嚥防止のために腹式呼吸運動の笛を吹いていただいている。食後は義歯洗浄・消毒を行っている		

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを把握し、時間おきのトイレ誘導を行っている。日中は皆さんトイレでの排泄を行っている	排泄パターンの把握はされ基本的には日中はトイレ誘導で支援している。夜間においても居室にトイレが設置してありトイレでの排泄がなされている。夜間、居室空調管理において出来るだけ安心できる支援をされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食後のトイレ誘導の習慣づけ、水分量や食事、日中の運動などで自然排便が出来るように心がけている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日、お風呂を沸かしている。個浴で1人ずつゆっくり入れる。入浴剤などを使用し香りや色を楽しんでいただいている	基本、1人昼からの対応であるが、毎日入浴される入居者もいる。入浴拒否される方には無理強いせず対応をしている。その日の気分で色々な入浴剤を使っており、季節に応じて菖蒲、ゆずが使われておりネットに入れて対応されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は冷暖房完備にて出入り自由なので、休憩をとったり入床時間も利用者の意思に任せている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人の内服薬の副作用、取り扱いに対して全職員しっかりと把握するように努めている。内服時には呼名にて薬袋の確認を行いながら内服していただくようにしている		

48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご自分のペースで出来るお手伝い（洗濯物たたみ等）や制作活動（塗り絵など）をしていただいたり外出などで気分転換をはかっている		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望の日時にそっての外出は困難な時があるが、職員とのドライブや施設行事での外出の他、ご家族の協力のもと自宅への外出支援を行っている。	2、3名づつ外出支援をしており、身体状況の変化によりレベル低下で頻繁に外出出来ない入居者の支援は花見等で支援に努めている。毎年、愛宕山まつりがあり入居者と商店の散策に出かけ支援をされている。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了承を得て、普段現金は事務所にてお預かりしている		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話にて連絡を取りたい時は随時連絡が取れるようにしている。お手紙は目が見えなかったり、読みにくい場合は代読を行っている		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室掃除は毎日行い、室温管理にて快適に過ごせるように心掛けている。フロアは季節毎の作品や写真を展示して鑑賞していただいている	1階、2階と作りは一緒であるが、入居者の作品や行事参加写真、又、職員が作成した暖簾が掛けられている。あたたかい穏やかな環境を心掛けており、近隣住民の提供で季節の水仙も生けられ微かな香りが楽しめる。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで談笑したり、テレビやDVDの鑑賞をされたり、日向ぼっこを日課とされている方など思い思いに過ごしていただいている		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたタンスや仏壇を持ってきていただいたり、使い慣れた茶碗を使用していただいている	ベッドはホーム提供で押入れがあり収納は十分である。ベッドでズボンや寝敷きされる方がおられ、対応できる工夫もされている。温度、湿度はリビングと差がなく、個々のベッドの位置は中央であったり、入り口付近等、入居者の動線により工夫され快適に過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内にはほとんど手すりがつけてあり、安全に移動できるようにしている。出来る活動も必ず見守りを行い、安全に生活出来るように心がけている		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり・一緒に・楽しく」という理念を掲げ全職員が共有し実践できるように努力している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事への参加、保育園の慰問や中学校などの職場体験学習の受け入れを行っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会長や民生委員から近所の高齢者の方々の情報を聞き、相談があれば応じている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて出された意見について、カンファレンス等で職員へ報告し、話し合いを行っている		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者と定期的に連絡をとり、市主催の研修会にも積極的に参加している		

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束の研修に参加し、職員1人1人が拘束をしないケアの意識を持って取り組んでいる</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修に参加したり、カンファレンスの場でも学ぶ機会を持っている</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修参加は行っているが、現在制度を必要としている人はいない</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者やご家族の不安な要素に対し、十分な話し合いを行い不安解消に努めている</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会やお便りにて、近況を報告したり、面会時にご家族から、意見・要望がある場合、職員間で話し合いを行い対処している。入居時には苦情受付についても説明を行っている</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>各ユニットによるカンファレンスや職員全体のカンファレンスにて意見交換や要望の確認などを行っている</p>		

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	面接を行い職員の要望をきいて、話しやすい職場、働きやすい職場の環境作りに努めている		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	資格取得にも意欲的でそのための研修・講習の参加も支援している。職員のスキルアップや質の向上にも努めている		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	グループホーム協議会主催の研修や他施設との合同レクリエーション（風船バレー大会など）を通して情報交換を行っている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	事前の面談にて、不安なく新しい生活を始められるように困っている事などに対して解消できるように努めている		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	家庭的な環境の中で、これまでと変わりなく生活できるように、ご家族や利用者の不安な事の聞き取りを十分に行うようにしている		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	利用者・ご家族と十分な話し合いを行い、不安要素に対し、必要に応じては専門家の意見を取り入れている		

18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔話などコミュニケーションが取れるように利用者の興味ある話題にふれたり、作業を一緒に行う事で信頼関係を築くようにしている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えたい関係を築いている	職員だけでは解決出来ない事など、ご家族と協力しながらケアの提案を行い支援してる		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいた近所をドライブしたり、ご友人の面会などを通じて関係が途切れないように支援している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がトラブルにならないように、時には座席の配置を考慮したり、会話に職員が入り話しやすい環境を作っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方も、相談を受け付けたりする事が出来る		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	1人1人の思いや希望を聞きとり、その人らしく生活できるように出来る限り不安を取り除くように努めている		

24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談、情報提供書、家族からの聞き取りから、出来るだけ馴染みの生活が出来るように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の生活の様子、身体の状態を記録し、職員同士やご家族とも共有出来るようにしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスでの課題分析、面会時に家族から聞き取りなどで出た意見や要望を反映した計画書の作成に心がけている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での変化や気づき等を個別に記録し、その中から課題を見つけ、ケアへつなげていけるように、職員間での情報の共有を努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者やご家族の希望、要望に柔軟に対応出来るようにしている		

29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>学生の職場体験や外部のカルチャー教室（フラダンス）の慰問などを積極的に受け入れ、楽しんでいただいている</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>施設主治医と連携し、定期的に診察を受けている。ご家族の希望する病院への受診や他科受診も可能である</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>定期的な看護師の訪問で健康観察を行っている。何でも相談できる関係である</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院されたときは、担当医や病院職員、ご家族と連絡をこまめに行い、退院時にはスムーズに受け入れが出来るようにしている</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>早い段階から、利用者・ご家族の希望を聞き、協力医と連携し支援に取り組んでいる</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>心肺蘇生などの講習や緊急時の訓練を行い、事故発生時には対応できるように努めている</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署立ち会いの避難訓練や地域の方との協力体制も確立しており、地域の方にも避難訓練を見学していただくなど連携をとっている</p>		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方の人格を尊重し丁寧な言葉かけを心掛けている。ご家族の了承を得て馴染みの呼び方で声をかける事もある		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の生活歴や性格を把握し、本人の思いや希望を職員に伝えやすい環境作りに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や体調によってする事を決め、個々のペースにあったやり方が出来るように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容室に行かれたり、外出時には身だしなみに気をつけている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや茶碗ふきの手伝いを行っている。好物の聞き取りを行い、献立作成に取り入れている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態を変えて食べやすいように提供している。食事・水分の摂取量は記録し気になる点は主治医に相談している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前のうがい、食後は自分で口腔ケアが出来る方は行っていただき、出来ない方は職員が介助を行っている。義歯は毎日洗浄・消毒を行っている		

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来るだけ排泄の失敗がないように、声かけにて時間誘導を行っている。個々の排泄パターンを職員は把握するようにしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日運動を行い、水分も1日に必要な量を摂取している。排便が困難な時は主治医に相談を行い、内服処方されるときもある		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	日曜日以外には毎日入浴出来るようになってる。失禁時にも随時入浴できるようにしており、清潔にすごせるようにしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の体調にや気分に合わせて、休息できるようにしているが、できる限り、日中は活動していただき夜間良眠できるように心がけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の内服薬に変更が生じたときは、申し送りにて確実に職員間で情報を共有するようにしている。また薬の確認は2人以上で行っている		

48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>利用者が得意とされることをお手伝いとしてお願いしたり、個別に外出や散歩にて気分転換を図るようにしている</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>利用者の希望される時間帯や日時に対応できないときは、ご家族に協力していただくなどして対応している</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の管理ができる方は、少ない金額をご自分で管理されている。それ以外の方は事務所にて管理されている</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご家族に電話をかけたいと希望されたときには、いつでも連絡ができるようにしている</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>フロアの壁には季節の掲示物を貼り、明るいフロア作りに努めている。日差しが強いときはカーテンを二重にするなどの対応をしている</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ベランダから外を眺めたり、ホールではソファに腰掛け、アルバムを見たりDVDを鑑賞されている</p>		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたもの、愛着のあるものを持参していただき利用者が安心して生活できるように工夫している。壁飾りなどは危険にならないように注意している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室がわかりやすいように表札代わりの名札や暖簾を製作している。施設内はほとんど手すりが設置してあり歩行しやすくなっている		
V アウトカム項目					
56		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない	
57		利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない	
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
62		利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない	

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない